

# 所長の部屋

2022年10月

新型コロナとインフルエンザ

福島県 県南保健福祉事務所

*Kennan Public Health and Welfare Office*

# 新型コロナウイルス感染症の後遺症について

コロナ感染症の後遺症は多彩、全身症状から局所症状まで  
精神症状もあり、診断が難しい  
期間も、週単位から年単位まで、色々

## コロナ後遺症で頻度の高い症状

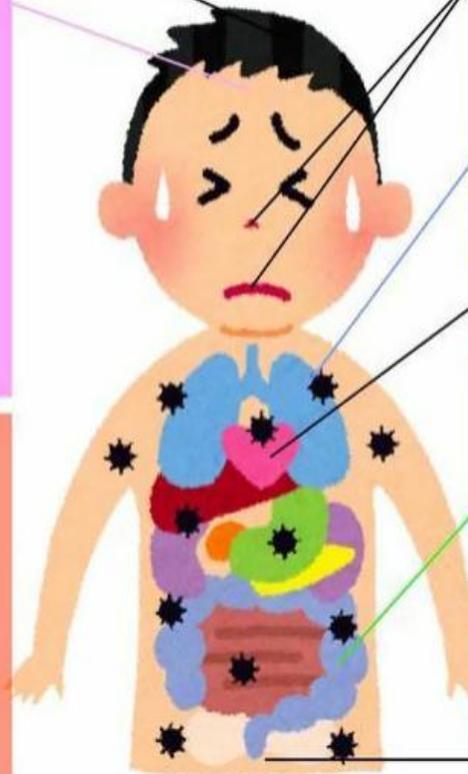
脱毛

### 精神神経症状

- ・ 記憶障害
- ・ 集中力低下
- ・ 不眠
- ・ 頭痛
- ・ 抑うつ

### 全身症状

- ・ 倦怠感
- ・ 関節痛
- ・ 筋肉痛
- ・ しびれ



嗅覚障害・味覚障害

### 呼吸器症状

- ・ 咳・痰
- ・ 息苦しさ
- ・ 胸の痛み

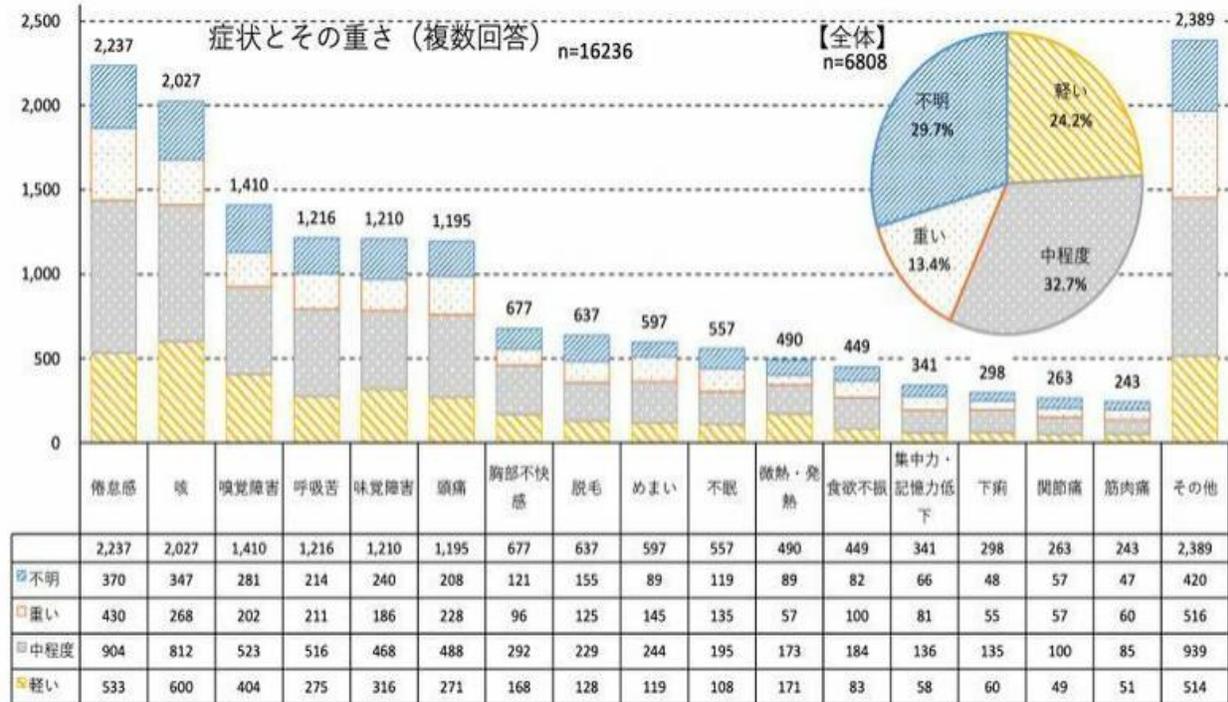
動悸・頻脈・浮腫

### 消化器症状

- ・ 吐き気・嘔吐
- ・ 下痢・腹痛
- ・ 食欲不振
- ・ 体重減少

性欲減退・射精障害

## オミクロン株になってコロナ後遺症はどう変わったか？



大阪府新型コロナウイルス受診相談センターにおける後遺症相談件数の症状の内訳 (大阪府資料より)

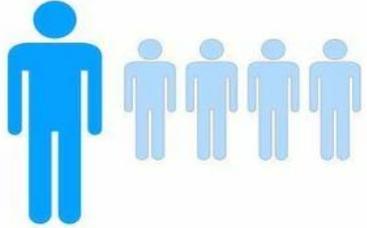
症状として多いのは

- ・ 倦怠感
- ・ 咳
- ・ 嗅覚障害(症状としては多くない)

# 後遺症について

コロナ後遺症が起こる頻度や起こりやすい人は？

5～8人に1人が経験



高齢者に多い



女性に多い



重症だった人に多い



コロナ後遺症が起こる頻度や起こりやすい人の特徴（筆者作成）

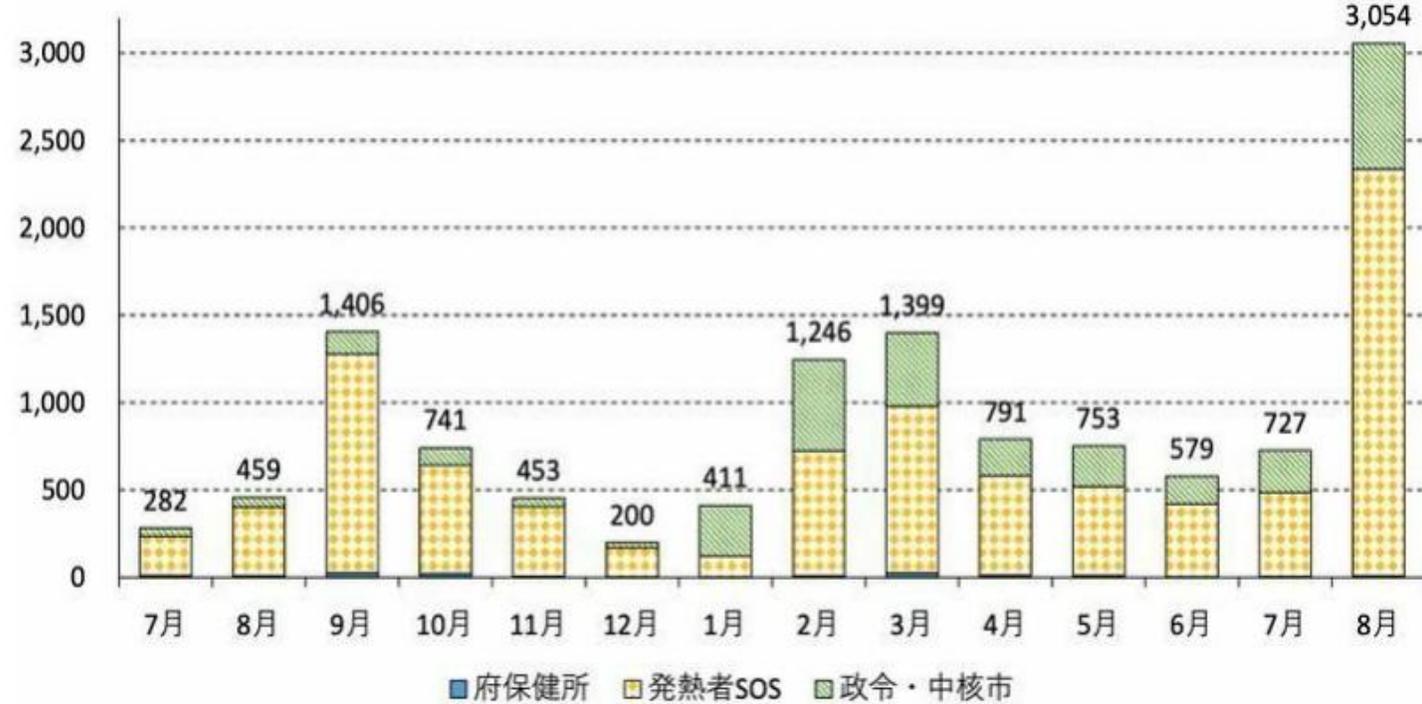
後遺症が起こりやすい感染者は、

- ・ 高齢者
- ・ 女性
- ・ 重症 だった感染者に多い

頻度は、1人/5～8人 くらい

## コロナ後遺症の相談件数が急増している

政令・中核市を含む後遺症相談件数（令和3年7月8日～令和4年8月31日） N=12,501



大阪府新型コロナ受診相談センターにおける後遺症相談件数の推移（大阪府資料より）

オミクロン株の流行に伴い  
感染者数が急増

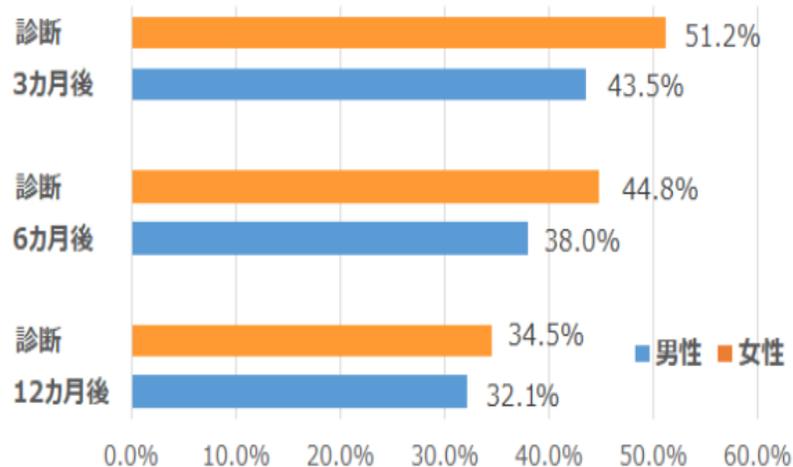


後遺症の相談件数も増加

Kennan Public Health and Welfare Office

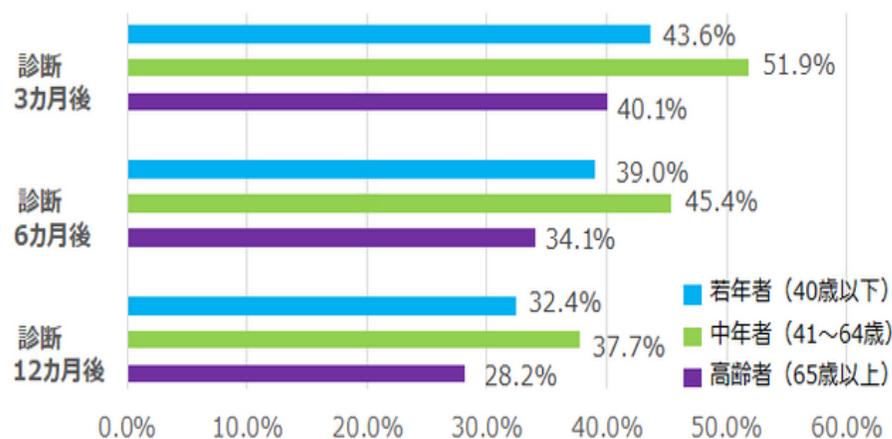
# 後遺症について

## (男女別) 罹患後症状を有する割合



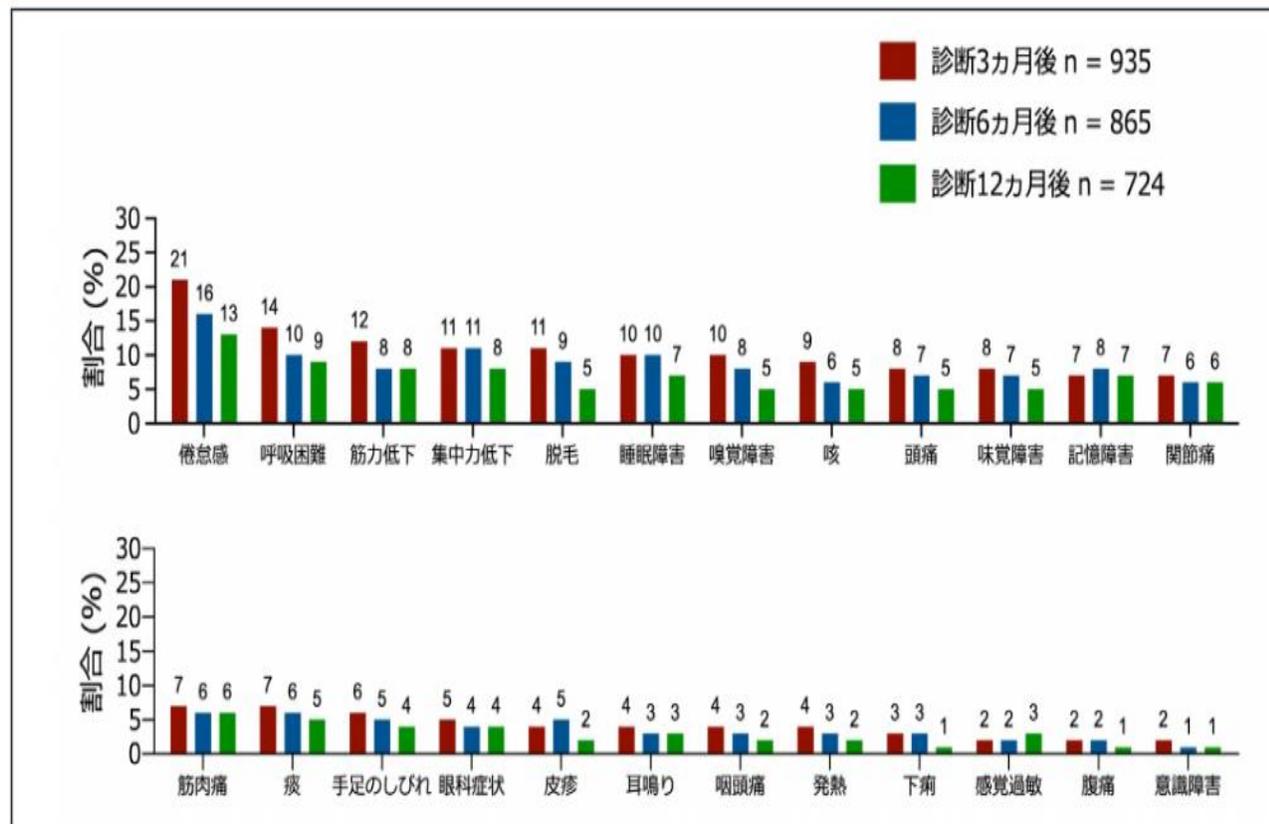
診断3カ月後、6カ月後、12カ月後のいずれの時点でも罹患後症状を1つでも有する割合は女性に多かったことが報告されています。

## (世代別) 罹患後症状を有する割合



診断3カ月後、6カ月後、12カ月後のいずれの時点でも中年者で罹患後症状を認める割合が高かったことが報告されています。

図 1-2 代表的な罹患後症状の経時的変化



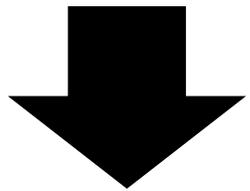
後遺症は 徐々に改善する傾向にあるが、  
1年以上の長期にわたることもある  
⇒ 原因は 不明

# 後遺症について

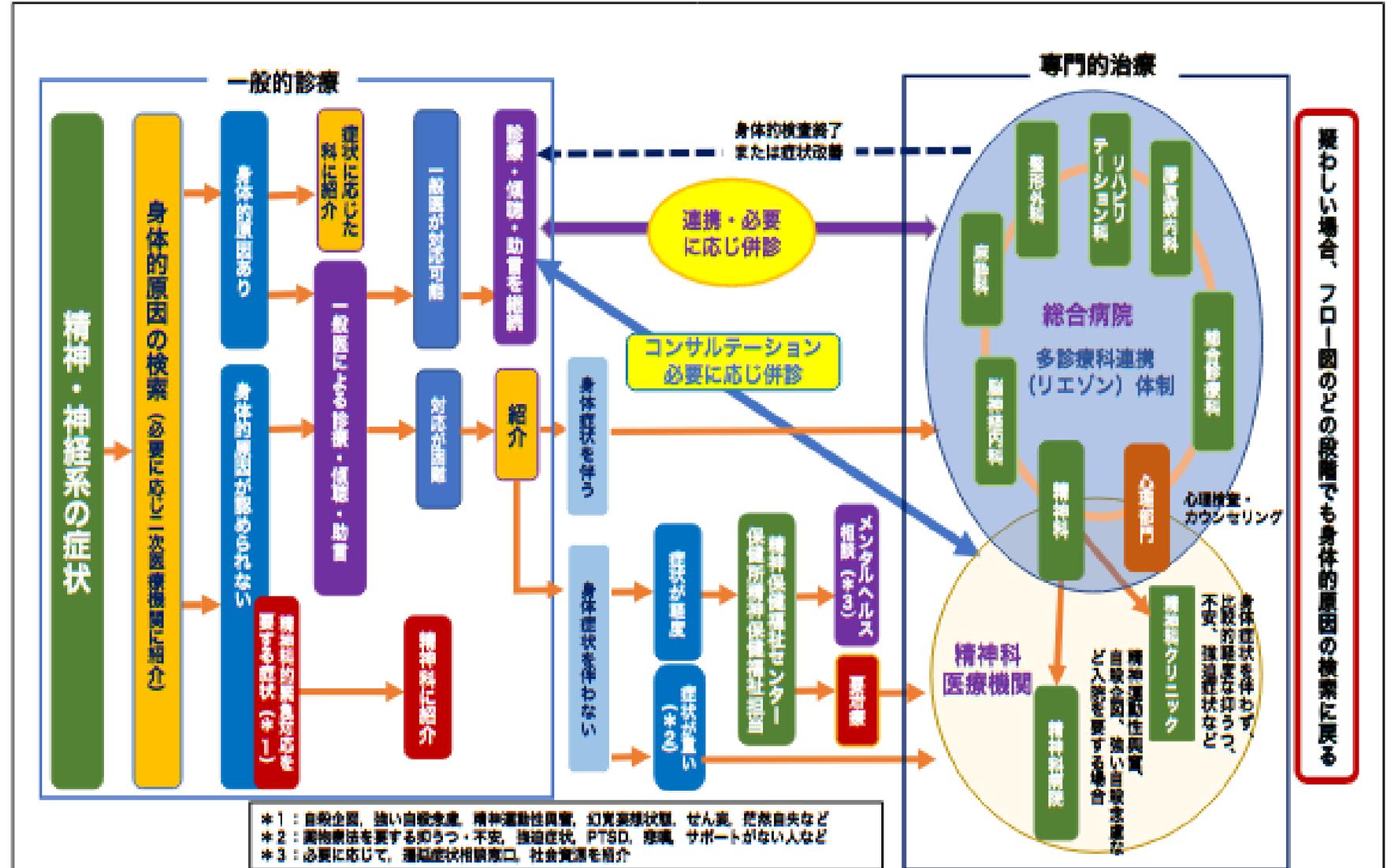
## 診療のフローチャート（精神症状の場合）

後遺症に対する診療は、  
症状に合わせて  
フローチャート がある

ただ、  
原因不明の場合が多い



器質的な異常がない時は  
**対症療法**



# 今冬は、新型コロナ 季節性インフルエンザ の同時流行の可能性が大きい

今夏、オーストラリアでは、  
インフルエンザが 3年ぶりに大流行

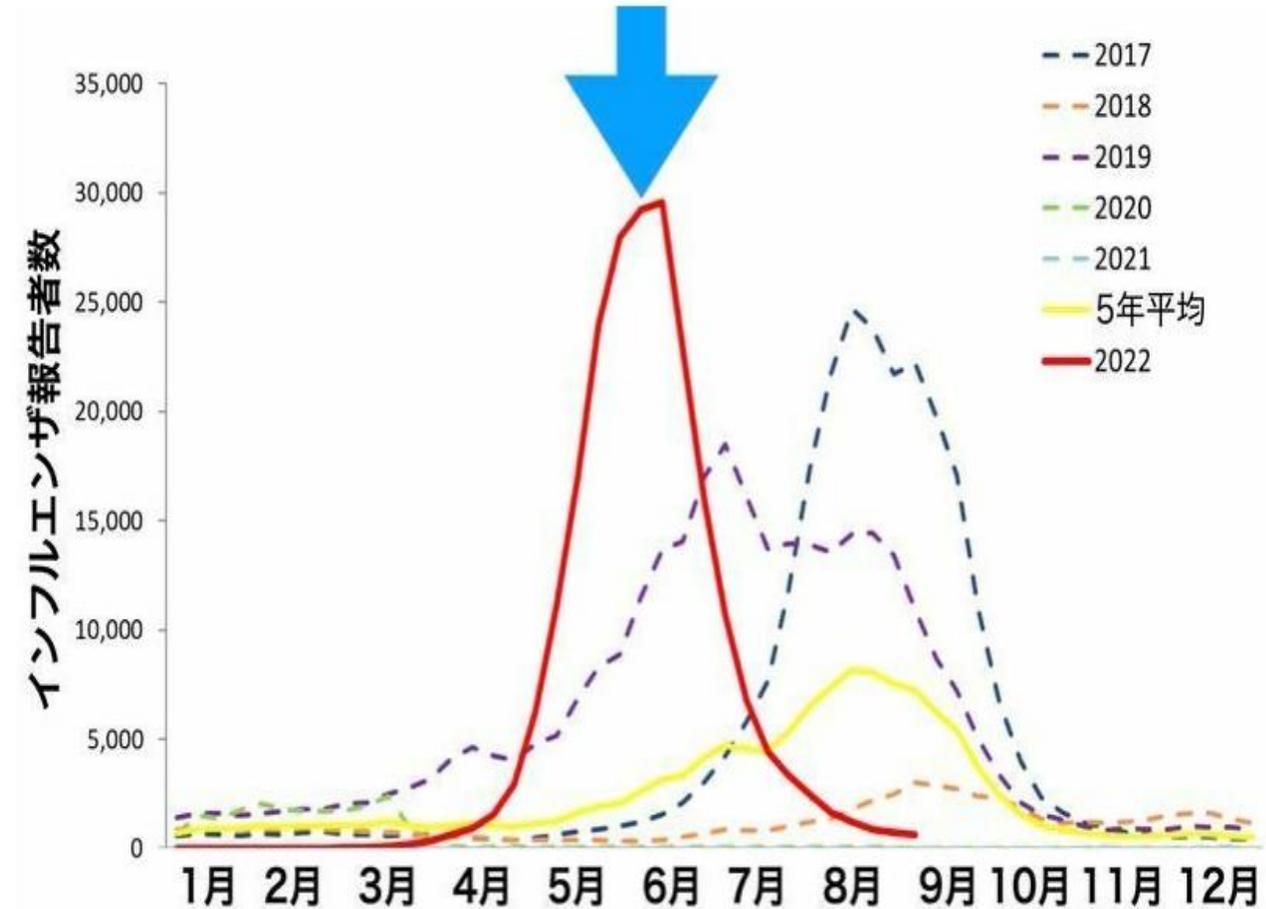


日本でも、同様に  
インフルエンザ流行が起こる可能性が大きい  
+  
新型コロナウイルスの流行再拡大



**新型コロナ・インフルの同時流行**

今年はインフルエンザも流行るかもしれない



オーストラリアのインフルエンザの流行状況（オーストラリア保健省）

# 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーレポート からの提言

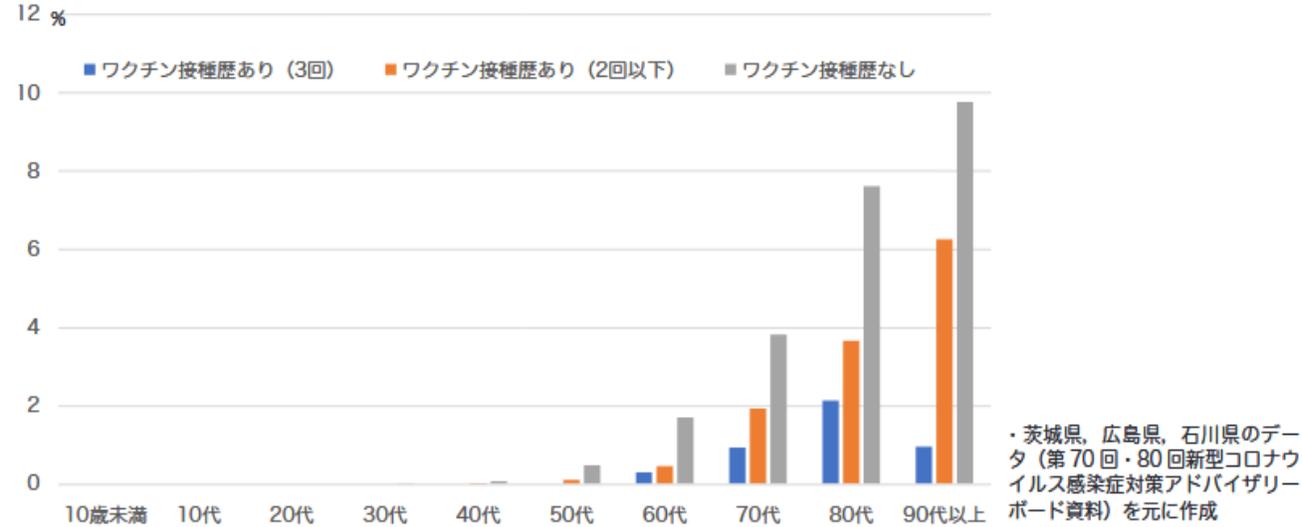
## 新型コロナと季節性インフルエンザの同時流行に備えて

- ・インフルエンザワクチンと2価新型コロナワクチンの高い接種率の実現
- ・全国医療機関で COVID-19 とインフルエンザを診断・治療できる体制の整備
- ・COVID-19 とインフルエンザの同時流行に備えた重症例の病床確保
- ・定点把握を含むサーベイランス体制の再確認

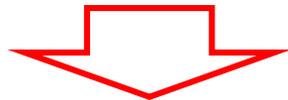
# 新型コロナワクチンの効果について

図 2-3 ワクチン接種歴による年代別重症化率\* (2022年1月~2022年2月; 暫定値)

\*重症化率: 人工呼吸器, ECMO, ICUなどで治療を受けた患者および死亡者の感染者に対する割合



- 本データは感染者が療養または入院期間が終了した際のステータスまたは2022年5月31日時点でのステータスに基づき算出しており, 重症化率・致死率を過小評価している可能性がある。
- 感染者数は感染症法に基づく報告による新型コロナウイルス感染症の陽性者であり, 無症候性病原体保有者を含むすべての感染者を補足できておらず, 重症化率・致死率を過大評価している可能性がある。
- 表記の期間内に発生した新規感染者数とそのうちの重症数と死亡者数を単純に集計したものであり, ワクチン接種から検査までの期間や治療内容等の背景因子が異なることなどから, 本データによりワクチン接種による予防効果が明らかになるものではない。



**ワクチンの重症化予防効果は明らか**

新型コロナワクチン接種歴 新型コロナウイルス検査陽性者 / 全体no.(%) 発症予防におけるワクチンの相対的な有効性(%) (95%信頼区間)

BA.5 流行期

ファイザー社製またはモデルナ社製

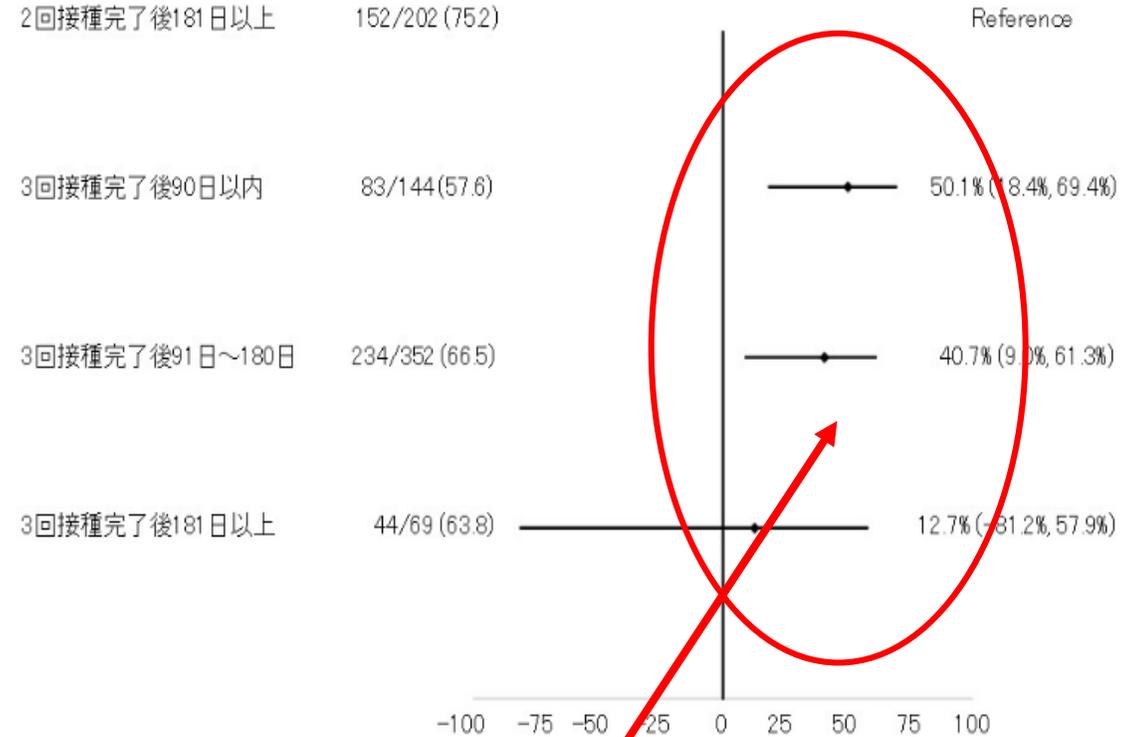


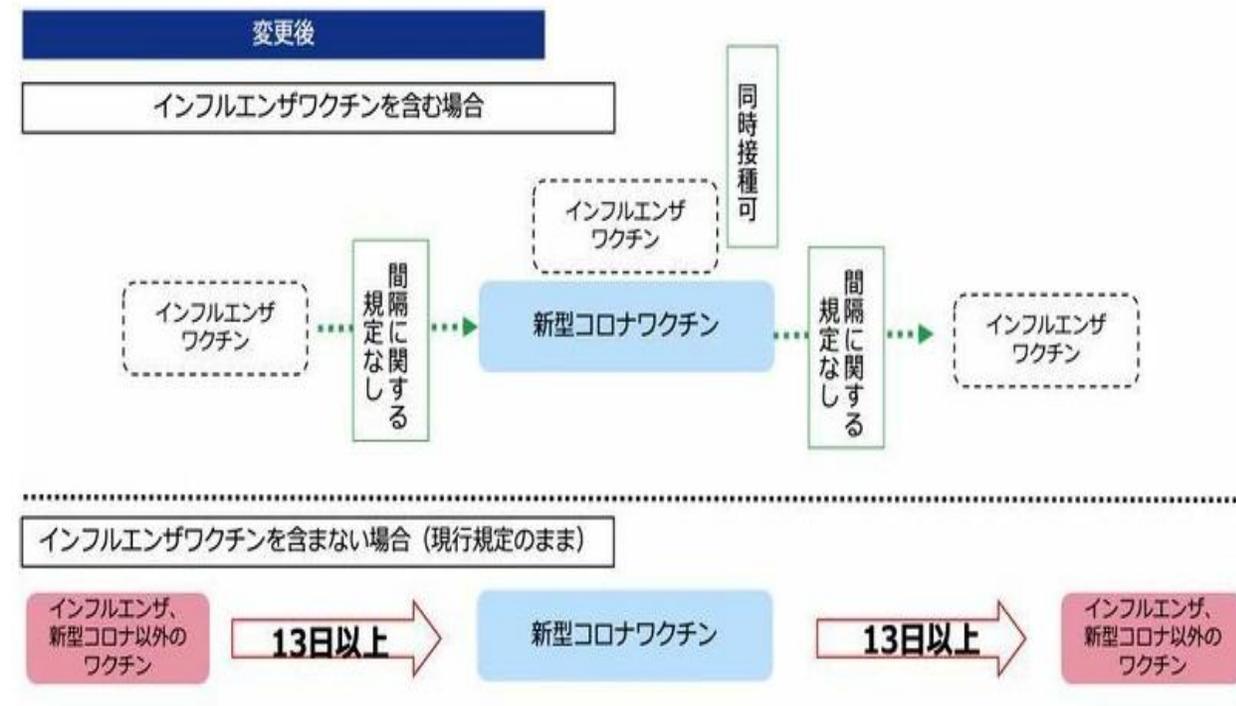
図 4. 16~64歳での新型コロナワクチン2回接種完了後181日以上経過と比較した3回接種完了の相対的な有効性

**0から右側であれば、発症予防効果あり**

## インフルエンザに罹ると重症化しやすいためワクチン接種が強く推奨される方

- ・生後6ヶ月から5歳の小児
- ・50歳以上の人
- ・慢性肺疾患（喘息を含む）、心血管疾患（高血圧症を除く）、腎疾患、肝疾患、神経疾患、血液疾患、代謝性疾患（糖尿病を含む）を有する成人および小児
- ・免疫不全者（免疫抑制剤使用、HIV等を含む）
- ・インフルエンザシーズン中に妊娠している人、または妊娠する予定の人
- ・アスピリンやサリチル酸を含む薬を服用しており、インフルエンザ罹患後にライ症候群を発症するリスクのある小児および青年（生後6ヶ月から18歳まで）
- ・著明な肥満（BMI>40の成人）
- ・介護施設や慢性期病棟の入所者

## 新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンは同時接種可能



新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンとの接種間隔（厚生労働省資料より）

# 新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの 同時流行に備えた対策

厚労省呈示

- 1) 新型コロナ・インフルの同時流行下における外来受診・療養の流れ  
⇒ 2つのパターンに分けて対応
- 2) 発熱外来の強化と治療薬の円滑な供給  
⇒ 新型コロナとインフルの同時検査キットの確保(3800万回分)  
⇒ 経口剤290万人分、中和抗体剤150万人分
- 3) インフル等の体調不良等により受診を希望する患者の  
電話診療・オンライン診療体制の強化  
⇒ 電話診療等に対応する医療機関、夜間・休日の電話診療等の輪番体制の確立
- 4) 健康フォローアップセンターの拡充と自己検査キットの確保(2.4億回分)
- 5) 発熱患者等の相談体制の強化と周知徹底
- 6) 救急医療や入院治療等に関する対策
  1. 救急医療の逼迫回避
  2. 入院治療が必要な患者への対応の強化
  3. 高齢者施設等に対する医療支援等